

## サイエンスキャンプ2004報告

サイエンスキャンプは、先進的な研究施設や研究現場で、第一線の研究者等から直接指導を受けることにより、次の時代を担う若者の科学技術に対する知的好奇心や探求心を育てることをねらいとして、日本科学技術振興財団の主催により毎年実施されています。

今年の受け入れ機関は、国立科学博物館、宇宙航空研究開発機構、産業技術総合研究所などの独立行政法人が中心で26機関でした。当農研機構からは中央農業総合研究センター（北陸研究センター）、果樹研究所／花き研究所（合同で開催）、畜産草地研究所、動物衛生研究所が参加し、8月18日（水）から20日（金）の3日間、同時に開催されました。

参加者は当所を希望した全国の応募者51人の中から選ばれた8人の高校生の皆さんでした。

参加者：明日 卓 3年 男 福岡県  
 大久保祥恵 2年 女 茨城県  
 小山 崇裕 2年 男 京都府  
 鈴木 晴香 2年 女 山形県  
 多辺田朱美 3年 女 茨城県  
 土屋 友 2年 女 千葉県  
 濱西 喬子 3年 女 広島県  
 山本 聡美 2年 女 埼玉県

アドバイザー：小俣 力

城北中・高等学校 教諭

サイエンスキャンプ事務局：中野 良一

カリキュラムと講師は次のとおりです。

8月18日（水）

13:00～13:30 開講式・オリエンテーション

13:30～17:30 診察の基礎（病態生理実験棟）

牛の心拍、心音、呼吸測定、血液細胞の観察。

直腸検査、牛や豚の卵巣や子宮の観察。

指導：生産病研究部病態生理研究室

堀野 理恵子・藤野 資子

指導：生産病研究部臨床繁殖研究室

吉岡 耕治・鈴木 千恵

8月19日（木）血清診断法や遺伝子操作の基礎

9:00～17:00 蛋白質コース・遺伝子コース（各4）

感染症の診断法や遺伝子操作について

指導：免疫研究部免疫病理研究室

清水 眞也

免疫研究部応用免疫研究室

國保 健浩・渡邊 聡子

8月20日（金）

9:00～12:00 家畜の病気を診断する

家畜の病気を病理学的診断する。

病気の組織を電子顕微鏡で観察する。

指導：疫学研究部病性鑑定室

久保 正法

13:00～15:00 まとめ・閉講式



今回のサイエンスキャンプでは、まず一般臨床学的診断、次に血液を用いた診断や遺伝子について学び、最後に病理学な診断を学ぶという流れで、実際に体験する実習を中心に構成されました。

当所のサイエンスキャンプを希望した動機は、多くの方が動物に興味があり、動物関係の仕事に就きたいという希望からでした。

閉講式で皆さんの感想を聞くと、3日間のカリキュラムを経験し、研究者と直に交流したことで、将来の夢がますますふくらんで確固としたものになったり、「研究」という仕事を知ったことで視野が広がったりと、それぞれに収穫があったようです。

連日の厳しい暑さの中で3日間を共に過ごした参加者の皆さんは、楽しく充実した3日間だったと言いながら、名残惜しげに動衛研を後にしていました。

（広報委員会事務局 情報資料課）